

## 令和5年度 第1回磐田市立図書館協議会会議録

- 日時 令和5年7月7日（水） 午後3時から午後4時30分まで
- 場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：鈴木裕之、濱永慧子、田中さゆり、竹内恵美子、児玉恵里子、  
青島公悦、松野正比呂、久永公子、西藤正江（以上敬称略）
- 事務局等：
- 山本敏治教育長  
藺田欣也教育部長  
中央図書館：岡本由紀子館長、高杉順也館長補佐、  
長尾信貴主査、寺田知代主任  
福田図書館：太田雄介館長  
竜洋図書館：鈴木康之館長  
豊岡図書館：高橋道博館長  
にこっと：兼子順子館長  
学校教育課：加藤智慧子指導主事
- 傍聴人 0名

### □内容 以下のとおり

- ・議事に先立ち、山本教育長から各委員に委嘱状、辞令書が交付された。（代表で田中さゆり委員へ委嘱状、鈴木裕之委員へ辞令書）
- ・委員の互選により、青島公悦委員が会長に選任され、会長より田中さゆり委員が職務代理者に指名された。

## 議事（1）令和4年度事業報告及び令和5年度主要事業について

### 1. 令和4年度事業報告について（以下、事務局）

#### （1）図書館資料整備事業

- ・令和4年度は臨時休館や開館時間の短縮は行わず、マスクの着用や手指消毒などの新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら運営した。  
年間の利用者数については、にこっと及びながふじ図書館を合わせた6館で317,784人、貸出点数については、1,163,779点だった。貸出状況を資料別に見ると、一般書が555,190点、児童書が510,665点となっている。令和3年度からは、新型コロナウイルスの感染が弱まったためコロナ前の水準に戻りつつある状況だったが、数字的には令和3年度より若干の減少か、ほぼ同等の状況となった。
- ・レファレンスというのは利用者の疑問や相談に応える、情報さがしのお手伝いのような業務であり、このサービスについては年間1,550件の相談が寄せられた。前年度が1,258件ということで、若干の増加であった。
- ・電子書籍サービスの閲覧数等は9,663回で、令和3年度と比較すると約18%の増加となった。これは、チラシを配布するなどの周知活動を行ったこと、昨年度に児童用の資料を増加したことによる成果と考えている。電子書籍サービスは、コロナ渦においても来館しなくても利用できる、24時間いつでも利用できるサービスであるので、更なる今後の活用を検討していきたいと思っている。

## (2) 図書館施設管理事業

- ・各館の状況に合わせて様々なイベントを企画した。今までは規模を縮小するなどしたが、感染防止対策を講じたうえで実施し、参加者は前年度に比べ約40%の増となった。また、展示室は市民団体の活動の発表の場として47団体が利用し、入場者は前年度に比べ8%の増となった。

## (3) 子ども読書活動推進事業

- ・「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「おはなし会」や、市内の全小学3年生の親子を対象とした「茶の間ひととき読書運動」、学級文庫の小中学校への本の貸出などを実施し、子ども達が本に親しむ機会の確保に努めた。

## (4) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・資料の貸出と対面朗読の実施状況は資料のとおり。毎月の声の図書館だよりや、利用者からの個々の要望を聞き点訳・音訳図書を郵送している。また、協力員の方に、点訳、音訳資料の作成をしていただくなど、視覚障害がある方に読書機会を提供するよう努めた。

## 2. 令和5年度主要事業概要について（以下、事務局）

- ・今年度も、「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館」を基本方針とし、ここに記載の4つの運営方針を、職員一人ひとりが常に意識し、事業を展開していきたい。

### (1) 効果的な情報と魅力の発信

- ・図書館の所蔵資料による効果的な情報と魅力の発信を行う。図書館主催の事業についても、図書館へ足を運んでいただくきっかけづくりや、図書館を知っていただく機会として有効なものにしたいと考えている。また、図書館ホームページやLINE、インスタグラムなどのSNSを積極的に活用し、情報発信の強化にも取り組んでいく。

他団体との連携についても、例年に引き続き実施方法を検討しながら進めていく。今年度は中央図書館が現在の場所に移ってから30年という節目の年であり、それに付随した様々な事業を展開していく。

### (2) 施設管理と運営

- ・施設管理については、施設の長寿命化対策など、利用者の皆様が安全・安心に利用できる施設の維持管理に努めていく。また、昨年度導入したICタグシステム機器の利用促進を図りながら、市民サービスの向上・事務の効率化を図っていきたい。

### (3) 図書館資料整備事業

- ・できる限り同じ資料を複数館で所蔵しないよう適正な管理を行い、厳選した資料収集を実施するとともに、各館の特徴を活かした書架づくりや、季節やテーマに応じた特設コーナーの設置など、各館において取り組みを進めていく。また、電子書籍サービスについては今後も貴重な地域資料の電子化を着実に進めていく。

### (4) 子ども読書活動推進事業

- ・「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、継続して各事業を実施していく。

### (5) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・点訳、音訳協力員の皆様の協力を得ながら、点訳図書や録音図書の作成及び郵送による貸出、対面朗読の実施、大活字本の整備など、視覚障害がある方にも本に親しむ機会が提供できるよう、継続して事業を実施していく。今年度は約7年ぶりに点訳、音訳協力員養成講座を開催し、協力員の育成にも努める。

## ICタグシステムの導入について（以下、事務局）

- ・昨年度、磐田市内全ての図書館の資料にICタグを貼付する作業を行い、併せてICタグを読み取る機器を導入した。これは新型コロナウイルス対策の側面もあり、国の交付金を活用しての導入になった。他に磐田市立図書館としては、郵便ポストのように入れるだけで返却したことになる「ICセルフ返却機」、カウンターで貸し借りを整理するときのICカードリーダーも43台設置した。

セキュリティ対策としては、貸し出し処理のされていない資料が外に出ようとしたとき、音で知らせるICセキュリティゲートを中央、福田、竜洋、にこっとの4館に設置した。

また毎年行う蔵書点検は、資料1点毎にバーコードを読み取る作業であったが、本をなぞるだけでICタグを読み取ることができる「蔵書点検探索システム」も3台導入した。

新型コロナウイルス対策で非接触が日常になりつつある今、カウンターを通さず、自身で貸し出し処理ができる「ICセルフ貸出機」も導入した。現在、図書館で本を借りる方の約20%弱がセルフ貸し出し機を利用されている状況。今後も様々な宣伝等をしてしながら利用率を伸ばしていきたいと考えている。

### 〈質疑・意見〉

- 事業報告の説明では、にこっと及びながふじ図書館が入っているが、子ども読書活動推進事業の欄には入っていないのは何故か。

（事務局）

ここでは市立図書館のみの集計を表記している。ながふじは学校図書館で、自主事業としては現在は催しをしていないため、こちらの集計には入れてない。

- ICタグを取り付けて、20%の方が職員を介さないで貸し借りをする状況のようだが、それによって職員の仕事は楽になったのか。

（事務局）

貸し出しの業務で、予約本の受け取りについては自動化できなかった。予約本がある方は必ずカウンターにお越しいただく必要があるため、明らかに業務が減少したまでには至っていない。セルフ返却機に返却された本を確実に返却された状態にするため、職員が再度返却処理を行う。そのため、こちらも作業的にはあまり減っていない。今後の課題として検討していく。

- 本に貼ってある、図書館別に色分けされたバーコードがどうにかならないか。文字が書かれている上に貼り付けられていたり、絵の想定が台無しになってしまう所に貼り付けてある。

ICタグが貼ってあれば、バーコードシールは貼る必要がなくなるということか。

（事務局）

バーコードを貼る位置は、情報がある場合はそこを避けるという仕様書を作っている。ICタグを付けることによりバーコードがなくなることはない。ICタグは目印であり、重要なのはバーコードの方であるため、今後もバーコードシールは貼付していく。

これから納入する資料については、バーコードとICタグが一体となったものを貼付するためこれまでより大きくなってしまいが、無くすのは管理上難しいため、貼付の位置の配慮をしながらすすめていく。

○持ち去りなどの被害を防ぐためにも、定価以上の希少価値のある本は開架に置かず、閉架書庫にしまっておく方が良いのではないかと。

(事務局)

価格だけが本の価値を決めるのではないと思っている。どのような方にも、手に取って見ていただくことができるのが開架の良いところである。

**【連絡事項】**

- ・事務局より、11月13日に開催が予定されている「令和5年度静岡県図書館大会」の案内と、次回第2回協議会の案内。(来年1月末の予定)
- ・1階開架室に移動し、ICタグシステム機器の設備見学